



入場50万人目の細木さん夫妻（佐川町）

黒潮博

『南国みどり館』には

ます。見学者の中から、古代人の生活を生き生きと伝える、この貴重な遺跡の保存、展示を望む声が多くありました。

その他、市内の観光や産業を紹介したパネル展とビデオ、お米のクイズコーナーなども、子どもたちにも人気を呼んでいました。

五十五日間という短い期間とはいえ、多くの人と人が触れ合った黒潮博。空港所在地ということで、県下市町村では唯一単独で出したパビリオン『南国みどり館』には、

予想以上の見学者が訪れ、「田園都市『南国』を、知っていたら機会を得た」とは確かです。しかし、それだけの成果ではあまりにも惜しい気がします。

市が取り組んだ、初めての大きなイベント。その経験を、そこで得た新しい知識を、市民のためにこれからはどう生かしていくかが、大きな課題となっています。

入場者の声



高田 利一さん
(下末松)

少ない面積で、大きな収穫を得ることができると水耕栽培は、すばらしいと感じましたが、現実的に



都築寿美子さん
(上野田)

せっかく高知で行うので、友達夫婦といっしょに四人で出かけ、やはり身近に感じた『南国みどり館』に、まず最初に入りました。



有沢由香里さん
(田村)

初めての経験でしたが、主催者の方やコンパニオンの皆さんと、和気あいあいにでき楽しかったです。また、言葉遣いや人との接し方など、とても勉強になりました。

「南国みどり館」
コンパニオン

一番つらかったのは、寒さと暑さです。開幕した当初は寒く、ストープが必要でしたが、五月になると今度は蒸し風呂のように暑くなり、ウールの制服を脱ぐこともできず、もう大変でした。

終わってしまえば、今は少し淋しい気持ちです。また機会があったら、やってみたい仕事です。



幕閉じる

60万人が入場

高知空港のジェット化を記念し、「地方」その望まじき未来」をテーマにした84高知・黒潮博覧会が五月十三日、会期五十五日間の幕を閉じました。その間、県内外から多くの観客が訪れ、総入場者は百万人を超えました。

『農業の歩み』その未来をテーマにした本市主催の『南国みどり館』には、約六十万人が入場。二千二百年前の古代農耕文化から未来の農業まで、その移り変わりを展示し、皆さんに興味深く、楽しく見ていただきました。

好評だった未来の農業

『南国みどり館』の名にふさわしく、未来農業コーナーには緑がいつぱい。土を一切使わず、コンピュータ管理の水耕栽培で育った、真赤なトマトや新鮮な野菜を見て、未来の農業を感じられた方

も多いことでしょう。

今は新道走路の下に眠ってしまっただけの古来の田舎も好評。復元された高き四層の高床式倉庫に、古代人の英知を感じられたことと思



水耕栽培のトマトは、一番の人気



社会科の授業を兼ねて、小学生も大勢訪れました



『オナガドリ』も鮮やか、ふんわりドームの『南国みどり館』